

サポセンだより

NPO 法人若年認知症サポートセンター通信

2025 年 1 月 20 日発行

第 24 号 Contents

第 15 回 全国若年認知症フォーラム in 沖縄	1
若年認知症専門員の活動報告、専門員研修の報告	2
「認知症の人が働くということ」 宮永 和夫	3
事例でまなぶ若年認知症、今後の研修の案内	4

今年の「全国若年認知症フォーラム」は沖縄発信です!!

本法人が所属する「全国若年認知症家族会・支援者連絡協議会」（以下、全国若年認知症協議会）主催の「全国若年認知症フォーラム」は、今年で第 15 回目を迎えます。コロナ禍のため 1 年開催延期となる年がありましたが、コロナ禍を乗り越えて「全国若年認知症フォーラム」は、昨年度の福岡開催からハイブリッド開催となり、今年も沖縄発信でハイブリッド開催となります。発足時の東京開催を皮切りに、本州、九州、北海道など各地を巡り、ついに南端の沖縄県で区切りの第 15 回開催となります。

「全国若年認知症フォーラム」は、都道府県ごとの開催にて、開催地に若年認知症の啓発と開催地のネットワーク作りとその促進を狙いの一つとしています。プログラムは開催地の実行委員会にて企画をし、全国若年認知症協議会と情報共有しながら進めています。今回の沖縄開催では、全国若年認知症協議会の会員である合同会社 Green Star OKINAWA が中心となり、所在地の沖縄県浦添市に開催会場を確保し、準備を進めています。そのプログラムの概要は以下のとおりです。

開催日時：2025 年 1 月 25 日（土）

13:00～16:30

開催会場：アイムユニバースてだこホール市民交流室（浦添市仲間 1-9-3）

参加方法：会場・オンライン ※申し込み不要

◆プログラム概要◆

- ・認知症劇（沖縄ハンズオン）
- ・「認知症施策の方向性」（厚生労働省）
- ・基調講演「沖縄県の若年認知症の現状と課題」
- ・全国若年認知症協議会活動報告
- ・シンポジウム「認知症になれる優しい街にするには」（仮）

シンポジウムには、認知症当事者として情報発信、社会活動をされ、2017 年には著書「認知症の私は『記憶より記録』」（沖縄タイムス社）を出版している大城勝史さんも登壇予定です。フォーラムを通して沖縄県の若年認知症の取組の現状を見聞きすることが出来ます。他の都道府県で生活している若年認知症当事者と家族の方、その支援に関わっている方、興味関心をお持ちの市民の皆さんに沖縄の「若年認知症の今」を知ってもらうことで、他の都道府県の活力にもなるのではないかと思います。ぜひ現地もしくはオンライン視聴にて参加してください。（理事：小野寺敦志）

第 15 回 全国若年認知症フォーラム in 沖縄

～誰もが安心して認知症になれる優しい街になる～



日時：令和 7 年 1 月 25 日（土）

13:00～16:30

場所：アイムユニバースてだこホール

市民交流室（浦添市仲間 1-9-3）

＋オンライン配信（ZOOM）

zoomでご参加の方はこちらから→

ミーティング ID: 835 5749 6039

パスコード: 461598



お問い合わせ先

第 15 回全国若年認知症フォーラム in 沖縄 事務局
合同会社 GreenStarOKINAWA（友寄・多良間） 080-3974-4644
主催：一般社団法人 全国若年認知症家族会・支援者連絡協議会

助成：公益社団法人 在宅医療助成勇美記念財団

◇オンライン参加の場合

Zoom ミーティング ID: 825 5749 6039

パスワード: 461598

「若年認知症専門員」の活動報告



山田多津子さん

私は普段三重県桑名市で居宅介護支援事業所のケアマネージャーとして従事しています。

6年前、地域包括支援センターに勤務していた頃、若年性認知症の相談が数件続いたことが私の若年性認知症の方の支援のはじまり

でした。介護者の方は私たち包括支援センターの職員よりも多くの情報を得ており、教科書に書いてあることだけを助言しているだけではまったく相談支援ができないことを痛感し、自分たちの自己研鑽の必要性を強く感じました。また、若年性認知症の本人、家族の方々は診断されたあと、自分と同じ境遇の人と話しがしたいという一心の思いで、インターネットなどで検索し、どんなに遠方でも、わらをもつかむ思いで足を運ぶということを知りました。

そこで私たちは、介護者の方が遠方へいくことなく、自分の市町で同じ立場の介護者同士、お互い励まし合い、認知症や介護について学び合うことのできる家族交流会を立ち上げることを決意し、平成30年10月に第1回目を開催することができました。その後、私は包括支援センターから民間の介護事業所、現在の居宅介護支援事業所

へと職場は変わりましたが、介護者の方やボランティアの方、関係機関の方々に支えられ、今でも2か月に1回開催することができています。

私は令和3年に若年認知症専門員認定研修のことを初めて知り、令和4年に第12期若年認知症専門員認定研修を受講しました。

現在の主な活動としては令和6年10月より若年性認知症特化型伴走相談窓口を市から委託を受け担当しています。内容としては若年性認知症本人とその家族へ、認知症に関わる相談、助言、また、社会参加を促す等の若年性認知症の方への生きがいにつながるような支援をおこなっています。

認知症地域支援推進員としても委託をうけており、若年性認知症の周知・啓発や若年性認知症本人の交流会の立ち上げ支援を行っています。

今後の活動としては、若年性認知症本人、家族の支えとなるチームオレンジを創出し、スローショッピングなど若年性認知症本人の活動の幅を広げるお手伝いができたらいいと思っています。これからも認知症の進行等で症状が変化していく中で、若年性認知症本人、家族と寄り添い続け、いつまでも住み慣れた地域で過ごしていけるよう、伴走しながら生活を支えていきたいと考えています。

山田多津子 氏 （第12期生）

所属：医療法人社団 青藍会
西桑名指定居宅介護支援事業所

「第14期 若年認知症専門員認定研修」が開催されました

第14期若年認知症専門員認定研修を10月26日・27日、11月23日・24日に開催、今年こそ対面開催をと企画したが、コロナやインフルエンザ等の急増を考慮し3回目のオンライン開催となりました。参加者は9名、「若年性認知症への対応を知りたい」と参加動機は普通だが、それぞれの職種・職場で利用者・当事者に深くかかわる活動をされているとお見受けした。

演習では自分の経験をどう若年性認知症支援に生かし、どの未知の支援を引き込むかなど意見交換が盛り上がった。ご家族の介護経験談、先輩の専門員、若年性認知症支援コーディネーターの講演は実感的で、ご本人・家族の生き様やそれを包み込むネットワークの姿が目に見える感じがしたのではないだろうか。

修了証を手にしたとき、地域ネットワークづくりへのエンジンがかかっているようでした。沖縄県、長野県、千葉県、広島県2名、千葉県2名、岡山県、鹿児島県の地元の専門員、また全国の先輩ともつながる仲間が増えたのは心強い。若年性認知症支援の実態はまだまだ十分ではないのだから。（理事：比留間ちづ子）



「認知症の人が働くということ」 理事長 宮永 和夫

認知症は大きく2つ、記憶障害を主症状とする健忘タイプと、記憶障害は少なく、精神症状や行動障害を主症状とする非健忘タイプに分かれます。前者はアルツハイマー型認知症と血管性認知症で、後者は前頭側頭型認知症やレビー小体型認知症です。

健忘タイプでは初期であれば同じ仕事の量や質を制限することで対応可能と思います。この点で、認知症と診断されても早期に退職するのではなく、周囲の同僚に理解され、同じ職場に留まれば理想的ですし、この流れが日本中に広まることを望んでいます。なお、進行した場合には、やはり退職でしょうか。しかし、健忘がハンディになるとすれば、認知機能をあまり使わずに、本人の趣味や得意とするものが選択された新しい職場が見つかると思います。

就労支援、就労継続A型やB型などの働く場は

障害者総合基本法にあります。ここでは、認知症の人を障害者と位置づけ、対応しています。ただ、残念なことは、長い期間そこに留まれないことです。なお、手続き記憶は重度になるまで保たれることが多いので、体を動かす仕事であれば、長期間の利用はできそうです。

これらを私案として表にまとめてみましたのでご参考にしてください（イメージとして、仕事というより作業療法に似ていますね）。他方、非健忘タイプは、意欲低下型、脱抑制型、常同型に3分すると、意欲低下型は能動性が少なく、仕事は困難かもしれません。脱抑制型は刺激の少ない環境で、本人の興味ある作業や身体を使う作業がよさそうです。常同型は本人の興味あるものを確認すれば、あとは繰り返し作業を持続できると思います。表を参考に非健忘型の人にも本人がやりがいのある作業内容を勧めてください。

認知機能の程度と、記憶力や判断力に頼らない他の能力による作業の関係

	仕事の種類	内容
認知機能 軽度低下	①データ入力・ファイリング等の事務作業	●単純で覚えやすく、 記憶力や判断力に頼らない仕事 メモやラベルで補助することで、忘れ物やミスを防ぐことができます。
	②食器洗浄・片付け等の飲食店スタッフ ③商品陳列・在庫管理等の小売店スタッフ ④洗車業務 ⑤清掃・シーツ交換等の介護補助作業	●ルーチンワークであり、 記憶力や判断力に頼らない仕事 ジョブコーチ支援事業を利用することで、職場での対応や指示の確認などをサポートしてもらうことができます。
認知機能 中等度 低下	①園芸・農業・畜産等の 自然に関わる仕事	●記憶力や判断力よりも 感覚や直感に頼る仕事 自然と触れ合うことで、心身のリラックスや健康促進にも効果
	②工芸・美術・音楽等の 芸術に関わる仕事	● 記憶力や判断力よりも創造力や表現力に頼る仕事 芸術活動を行うことで、自己表現やコミュニケーションの手段に
	③運動・スポーツ・レクリエーション等の 身体活動に関わる仕事	●記憶力や判断力よりも 身体能力や反射神経に頼る仕事 身体活動を行うことで、脳の活性化やストレス解消にも効果
	④ペットシッター・ドッグトレーナー等の 動物に関わる仕事	●記憶力や判断力よりも 愛情やコミュニケーションに頼る仕事 動物と触れ合うことで、癒し効果や社会性の向上にも効果
	⑤ボランティア・ヘルパー等の 人に関わる仕事	●記憶力や判断力よりも 思いやりや協調性に頼る仕事 人と関わることで、自己肯定感や自尊感情の向上にも効果
認知機能 重度低下	①折り紙・ビーズ・パズル等の 手先を使う作業	●記憶力や判断力よりも 集中力や協調性に頼る作業 手先を使うことで、脳の活性化や達成感を得ることができます
	②料理・菓子作り・パン作り等の 食べ物を作る作業	●記憶力や判断力よりも 味覚や嗅覚に頼る作業 食べ物を作ることで、生活リズムの整備や栄養バランスの改善にも効果
	③読書・絵本・朗読等の 言葉を使う作業	● 言語能力や聴覚に頼る作業 言葉を使うことで、認知機能の維持やコミュニケーションの促進にも効果
	④瞑想・ヨガ・マッサージ等の リラックスを促す作業	●記憶力や判断力よりも 呼吸法や体幹に頼る作業 リラックスを促すことで、ストレスの軽減や気分の向上にも効果
	⑤歌唱・ダンス・演劇等の パフォーマンスをする作業	●記憶力や判断力よりも 音感やリズム感に頼る作業 パフォーマンスを行うことで、自己表現や自信の向上にも効果

研修:「事例でまなぶ若年認知症」の紹介

(理事: 厚東知成)

2021年にスタートした事例研修会「事例でまなぶ若年認知症」は、皆様のご支持をいただき、今年で無事に4年目を迎えました。この研修は当センターの柱となる二つの研修会、基礎研修と若年認知症専門員認定研修の間をつなぐ位置づけであります。基礎的な知識を現場での支援へと活かすために、講師が実際に経験した事例を題材にして、アセスメントや方針の見定めから、具体的な資源の導入に至るまで、総合的な検討を行う研修会を目指しています。

本年度第1回「ブルース・ウィリスの病気への対応(担当: 宮永)」は2024年9月21日に開催され、参加者は計16名でした。この回は独特の言語障害を主症状とする“意味性認知症”を採り上げて、病気の理解と介護のポイントを学びました。失語を有する当事者とのコミュニケーションについて、講師、参加者で活発な議論が交わされました。第2回「幻聴の聴き方(担当: 厚東)」は同年12月14日に開催され、参加者は計15名でした。アルツハイマー病とレビー小体型認知症、二つのタイプの妄想を通して、内面の風景を想像する実践を行いました。また言下に否定しない、感情に共感する、適度な距離を取るといった聴き方のコツについて学びました。

本年度の最終回、第3回「職場での認知症の気づき(担当: 小野寺・宮永・厚東)」は、2025年2月15日14:00~15:30に開催します。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

★2024年度 事例研修会

「事例でまなぶ若年認知症」第3回 職場での認知症の気づき / 宮永・厚東・小野寺

日 程: 2025年2月15日(土)

時 間: 14:00~15:30 オンライン開催

参加費: 一般 3,000円 1回 会員・若年認知症専門員 2,000円 1回

★2024年度 基礎研修

「若年認知症と障害福祉サービス」(仮)

若年性認知症についての基礎的な研修です!

日 程: 2025年3月15日(土)

時 間: 13:30~15:30 オンライン開催

参加費: 会員・若年認知症専門員参加 1,000円 一般 2,000円

★2025年度 公開講座

日 程: 2025年7月13日(日) 予定

時 間: 未定(午前) ※オンライン開催

★2025年度・フォローアップ研修

日 程: 2025年7月13日(日) 予定

時 間: 未定(午後) ※オンライン開催

【編集後記】

“2025年問題”と言われてきましたが、ついにその2025年が幕を開けました。昨年末には、認知症基本法に基づく認知症施策推進基本計画も策定されていますが、今後、各自治体でも認知症の本人や家族、支援者の生活を支える施策が打ち出されることを願っています。本年もご協力の程宜しくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人若年認知症サポートセンター 事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-9-4 中公ビル御苑グリーンハイツ 605号

TEL: 03-5919-4186 FAX: 03-6380-5100

メール: info@jn-support.com ホームページ URL: <http://jn-support.com/>

第22号 2024年1月20日発行【発行責任者】宮永 和夫 【編集責任者】遠藤 百合子